



ひびき

Letter of the M.Y. elementary school

南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい かがやく子 ～

学校通信 NO.359
令和8年度 9月号
令和8年 8月28日

「自分の見方」に少し立ち止まり、「相手の視点」に立ってみる

校長 岸 俊介

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。この夏、地震や大雨などの自然災害により、各地で大きな被害がありました。被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く穏やかな日常が戻ることを願っています。

さて、夏休みには、子どもたちもそれぞれに読書に取り組んだことと思います。私もこの機会に、普段はあまり手に取らない分野の本を読みました。その一冊が、Newton 別冊『バイアスの心理学』です。

「認知バイアス」とは、端的に言えば「思考の偏り」のことです。私たちは何かを判断したり考えたりするとき、知らず知らずのうちにその影響を受けることがあります。本の中で興味をもったことのひとつが、「行為者—観察者バイアス」でした。

例えば、自分が約束の時間に遅れたときには、「電車が遅れたから」「急な用事が入ったから」と事情を考えます。ところが、誰かが遅れてくると、「時間にルーズな人なのかな」と、その人自身に原因があると考えてしまうことがあります。同じ「遅刻」という出来事でも、自分のことと相手のことでは、原因の捉え方が変わってしまうことがあるのです。

読んでいて、「確かに、そんなことがあるな」と思いました。そして、特に心に残ったのが「相手の視点に立って考えることが重要」という考え方です。人間にはこうしたバイアスが生じることがあると知っていれば、「自分は今、一つの見方だけで判断していないだろうか」と、少し立ち止まることができます。そして、「相手には、自分には見えていない事情があるのかもしれない」と考えることができれば、一つの見方だけで相手を判断することを避け、相手をよりよく理解することにもつながるのではないのでしょうか。

これは、子どもたちの学校生活にもつながるように思います。友達の言動に「どうしてだろう」と思ったとき、「何か理由があったのかな」と相手の視点から考えてみる。また、学習の場面でも、「どうしてそんなふうに考えたのだろう」「どうしてそのやり方を選んだのだろう」と、相手の考えの背景に目を向けてみる。すると、自分一人では気付かなかった見方に出会うことがあります。自分の見方を絶対とせず、相手の視点に立ってみることは、人との関わりにも、対話を通した学びにも大切なことだと思います。

夏休みの読書や様々な体験から得たことも、ぜひ友達や先生と伝え合ってほしいと思います。「そんな見方もあるんだね」と、自分とは違う考えにも耳を傾ける。そんな姿が、学校の様々な場面で見られることを期待しています。

自分の考えを安心して話せること。相手の考えに安心して耳を傾けられること。そして、自分の見方だけで決めつけず、「相手には相手の見方がある」と考えられること。そんな一人ひとりの姿勢が、誰もが安心して過ごし、学べる学校につながっていくのだと思います。夏休み明けも「チーム南山田」で、子どもも大人も安心して学び合える学校を共につくっていきたいと思います。

◎学校ホームページをご覧ください◎

※各学年の活動や学校からのお知らせなどを掲載しています。ぜひご覧ください。

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/minamiyamata/>